

牧草と園藝

昭和 31 年 春 季 目 録

雪印のたね

夕張郡長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社

中央研究農場



1

雪印種苗株式会社

草に生きる

五十嵐 清

あるとき車中で老事務員風の人と乗合せてつぎのような体験談を聴いた。
一つづ種の息子が勉強好きなので思い切つて東京の大学に入れた。爪に火を点す思いで
コッソリためた金を月々仕送りして大学を卒業したらと総ての夢を托しておつたところ半
年程で胸の病で休学し家に帰つてきた。それからの一家は全く火の消えたような暗さに包
まれた。そのうちに胸の病には山羊の乳が一番良いという話を聞き、早速一頭の山羊を手
入れ、息子を助けたい一念で、毎日あちらこちら山羊の好みそうな若草を求めてさまよつ
た。家の近くには良い草が無くなつて遠くまで草刈に出かけた。時がたつにつれて草の種
類によつて乳の香りや味が異なることや乳量の増減することを見付け、クロバリの若草を
与えると風味の良い乳が沢山出ることを覚えた。そこでこのクロバリーを屋敷に近い鉄道の斜
面に植えることに気がつき、毎朝人の寝ている頃に、路傍のクロバリーの株を掘り起しては、
鉄道用地に植穴を作つて移すことを始めた。一朝に千株、二十株くらいずつ人目をしのん
で植え続けた。数カ月の間に一反近くのクロバリーを移植したら草刈は鉄道の斜面だけで
むよになつた。夏秋の頃は青草が余るので乾草もできた。乳量も五合から一升、一升か
ら一升五合、二升と増え、親子三人が朝昼晩ふんだんに飲んだ。一つの信仰を持つたよう
に、神に念じて山羊乳をでき得る限り愛用した。ライスカレー、シチュー等料理に使う工
夫をこらした。こんなことを一年半熱心に続けるうちに息子は旧に倍して健康になり自信
を持つて上京し、立派に大学を卒業して今は大阪に勤めておりますが、全くクロバリーと山
羊は息子の命を助けたわが家の恩人です。

扱て昭和三十年は終戦後記録的な豊年満作の年であつたが、まだまだ食糧が不足で大量
の輸入をしなければならぬ。一般大衆の食生活の内容は米麦偏重で乳肉等の消費量は国
際的に甚だ低い。国民保健の面はどうかというに、体力も劣り、病人の割合も高い。先秋
のアメリカヤンキース対全日本の野球戦にも見られるように、ホームランをボンボン打込
まれて惨敗したのは、技術よりも体力の差であるとの声が高い。

このように考えると右の体験談は車中の話として聞き流すべきではないと思う。狭い国
土ではあるが、鉄道用地、堤防用地、畦畔、原野、山地等、牧草類の栽植可能地は幾百万
町歩とある。しかしこれらの空地は食糧生産には殆ど利用されていない。最近識者によつ
て草地農業ということを提唱されているのは、農耕地以外のこれらの土地に牧草類を繁茂
せしめて、乳牛その他の家畜を多数飼育し、衣食の一大増産を展開することである。

今こそわが国は、町の人も村の人も、各人こそつて良い草を山野に繁茂せしめることを
考え、この草をわれわれの食物に変えようと国民健康増進の基本とすることに活眼を
開き、熱情を以て勇敢に実行すべき秋であると思う。欧米諸国では牧草は最も大事な作物
として土地の管理は勿論その肥培に最も注意して栽培されているが、わが国では作物とし
ての取扱いはしていない。これを牧場の見学者について見ても修学旅行の生徒も観光客の
多くも、放牧中の羊群や牛群を眺めるのあまり、大切な牧草を踏みじつたり、牧草地に
寝ころんだりすることが平気である。外人は男でも女でも、職業の如何にかかわらず、家
畜を見る前に足元の草を見る。牧草を踏み荒すようなことはしない。

私は年頭に當つて今年も五穀豊穡であれかしと祈念するとともに、草の栽培利用に対し
国を挙げて認識を深め、草地農業が力強く実施される日の早からんことを念願する。

